

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、ご購入いただいております「SBIワールドラップ・セレクト」は、去る2025年8月13日に第9期の決算を行いました。

当ファンドは、主に投資信託証券に投資を行うことを通じて、インカム収益の確保を重視し、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行ってまいりました。

ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。

第9期末（2025年8月13日）

基準価額	7,996円
純資産総額	616百万円
第9期	
騰落率	△7.3%
分配金（課税前）合計	0円

（注1）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

（注2）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しています。

（注3）当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しています。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>
右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「当該ファンド」を選択 ⇒ 「目論見書・定期レポート等」を選択 ⇒ 「運用報告書（全体版）」より該当の決算期を選択ください。

SBIワールドラップ・セレクト

追加型投信／内外／資産複合

交付運用報告書

第9期（決算日：2025年8月13日）

作成対象期間（2024年8月14日～2025年8月13日）

SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポートをご覧いただけます。

<https://www.sbiasset.co.jp/>

運用経過

基準価額等の推移

(2024年8月14日～2025年8月13日)



期 首： 8,629円

期 末： 7,996円 (既払分配金 (課税前) : 0円)

騰 落 率： △7.3% (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、分配金 (課税前) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首 (2024年8月13日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。なお、上記表示期間に収益分配が行われなかった場合、基準価額と分配金再投資基準価額の推移は同一のものといたします。
- (注4) 当ファンドは、特定のベンチマーク (運用成果の目標基準) や参考指数を設けておりません。
- (注5) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当期における基準価額の主な変動要因は、以下の通りとなります。

当ファンドの基準価額に対するプラス要因

- ・ 2024年後半、約4年半ぶりとなる米国の利下げの決定や、トランプ新政権による減税および規制緩和期待が高まるなか先進国株式が上昇したこと。

当ファンドの基準価額に対するマイナス要因

- ・ 主に2024年8月から2025年1月にかけて、トランプ新政権の政策を巡る不透明感、FRBのタカ派的な姿勢や、ドイツの財政悪化懸念を背景に、先進国の債券市場が下落したこと。
- ・ 2025年3月から4月上旬にかけて、米国の関税政策の発表をきっかけに株式市場が急落したこと。

1万口当たりの費用明細

(2024年8月14日～2025年8月13日)

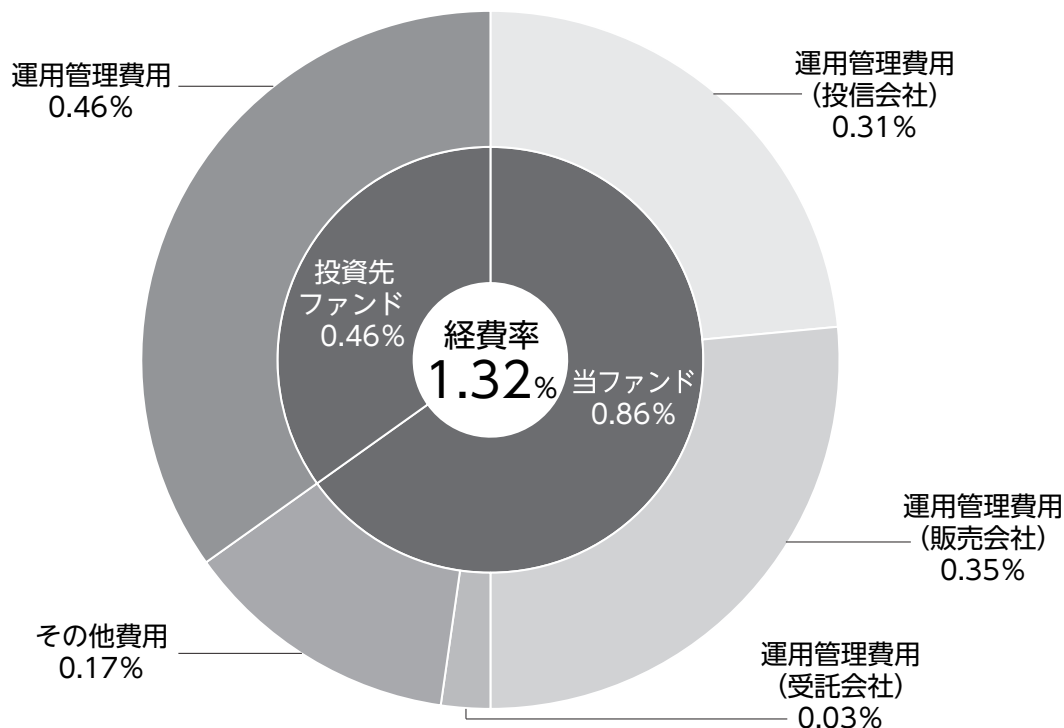
項 目	当期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 57	% 0.693	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(25)	(0.308)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(29)	(0.352)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(3)	(0.033)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	14	0.171	(b)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(7)	(0.089)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印 刷)	(7)	(0.081)	開示資料等の作成・印刷費用等
合 計	71	0.864	
期中の平均基準価額は、8,252円です。			

- (注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。
- (注3) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注4) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。
- (注5) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注6) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。
- (注7) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.32%です。



経費率 (①+②)	1.32%
①当ファンドの費用の比率	0.86%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.46%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

(注4) 投資先ファンドとは、当ファンドまたはマザーファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2020年8月13日～2025年8月13日)



- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したとみなして計算したファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金の再投資についてはお客様がご利用のコース等により異なります。また、ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2020年8月13日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。なお、上記表示期間に収益分配が行われなかった場合、基準価額と分配金再投資基準価額の推移は同一のものとします。

	2020年8月13日 決算日	2021年8月13日 決算日	2022年8月15日 決算日	2023年8月14日 決算日	2024年8月13日 決算日	2025年8月13日 決算日
基準価額 (円)	9,912	10,090	9,184	8,733	8,629	7,996
期間分配金合計 (課税前) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	1.8	△ 9.0	△ 4.9	△ 1.2	△ 7.3
純資産総額 (百万円)	2,802	2,126	1,550	1,211	911	616

(注1) 当ファンドは、特定のベンチマーク (運用成果の目標基準) や参考指数を設けておりません。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しています。

(注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。小数点第一位未満を四捨五入しています。

投資環境

(2024年8月14日～2025年8月13日)

<世界金融市場>

当期間中、株式、国債は上昇しました。2024年8月 - 12月、株式については、FRB（米国連邦準備制度理事会）による約4年半ぶりとなる利下げの決定やドナルド・トランプ氏が米国大統領選で勝利、連邦上院議会選でも共和党が圧勝したことで、減税や規制緩和期待の高まりから先進国株式は堅調に推移、新興国株式は概ね横ばいとなりました。債券については、トランプ大統領の減税によって財政赤字がさらに膨らむ可能性があるとの懸念やFRBが2025年の利下げに對しややタカ派的な姿勢を示したことなどから値動きが大きくなる局面も見られました。2025年1月 - 8月、株式については、トランプ大統領が発表した関税政策を受けて世界経済が景気後退に陥る懸念から、4月上旬には株式市場が急落しました。その後は貿易交渉の余地を残す方針を示したことや、包括的な減税法案の成立、良好な企業決算などから主に先進国株式を中心に当期の後半にかけて堅調に推移しました。債券については、ドイツが防衛およびインフラ投資を大幅に増加させるため財政規律の緩和を決定したことから、欧州債券の価格が下落する局面が見られました。当期末にかけては、米国の政策金利の利下げ期待の高まりと予想を下回るインフレ指標から米国債の価格が上昇しました。先進国債券は月により値動きはまちまちとなりましたが、上昇して取引を終えました。

<国内短期金融市場>

国庫短期証券3ヵ月物の利回りは、日本銀行金融政策決定会合においてマイナス金利政策の解除が決定されて以降はプラス利回りで推移しており、追加利上げに伴い利回りも上昇、期末時点においては0.439%程度の水準となりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2024年8月14日～2025年8月13日)

当ファンドは、投資先ファンドであるケイマン籍円建て外国投資信託「UBSユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲ－新生・ワールドラップ・ファンド・ステーブル・タイプ（適格機関投資家限定）円ヘッジクラス」受益証券（以下「投資先ファンド」といいます）と、「新生 ショートターム・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としています。当期は「投資先ファンド」への投資割合を高位に保ち、「新生 ショートターム・マザーファンド」を一部組入れた運用を行いました。

<投資先ファンド>

当期においては、足もとの堅調な市場環境を受けて、先進国債券、先進国株式のウェイトを引き上げ、現金等のウェイトを引き下げました。

<新生 ショートターム・マザーファンド>

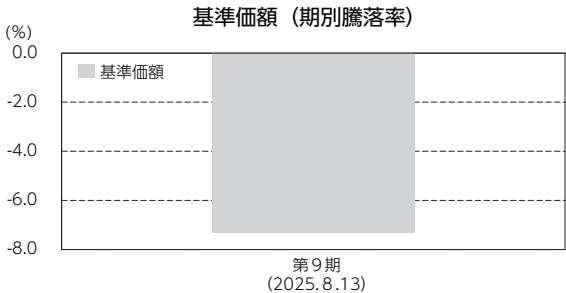
新生 ショートターム・マザーファンドでは、主として国庫短期証券等を組み入れました。組み入れ期間において国庫短期証券等の利回りがプラスで推移したことから、当期の基準価額は上昇しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2024年8月14日～2025年8月13日)

当ファンドは、特定のベンチマーク（運用成果の目標基準）や参考指数を設けておりません。

右記のグラフは、期中の期別基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（課税前）込みです。

分配金

(2024年8月14日～2025年8月13日)

分配方針に従い、当期は分配した金額はありません。収益分配に充てなかった利益につきましては、信託財産中に留保し運用の基本方針に基づいて運用を行いました。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第9期
	2024年8月14日～ 2025年8月13日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	— %
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	124

(注1) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

当ファンドは、引き続き、投資先ファンドの組入比率を高位に保つ方針です。

<投資先ファンド>

株式市場全体については、慎重ながらも楽観的見方を維持しています。地域別比較では、米国よりも欧州やアジアの方が投資妙味が高いと評価しています。世界経済の成長鈍化や、米国の輸入関税の影響で企業収益全般は打撃を受けると見られる一方で、欧州の2025年の企業収益は緩やかに成長し、2026年には大幅に加速すると予想しています。マクロ経済環境の改善の可能性、企業の新たな関税制度への適応努力、為替影響の緩和などによって、プラスの影響が見込まれます。米国でも2026年には企業収益の成長が加速すると見込まれますが、欧州ほど大きくはないと思われます。多くの新興国市場についても、国内経済の強い推進力と健全なファンダメンタルズに加え、米ドル安、収益機会の改善、そして良好な政策環境といった要因から有望であると投資先ファンドは考えています。しかしながら、地政学的リスクが根強く残ることや、市場が時としてファンダメンタルズよりもセンチメントに左右されるという事実から、株式市場が大きく変動する可能性があります。長期的には、企業固有のリスクを軽減し、個別リターン機会から利益を得るためには、個別銘柄レベルでの徹底的な分析が引き続き鍵になると考えています。

ユーロ圏のインフレ見通しは改善を続けており、総合インフレ率とコアインフレ率のいずれもECB（欧州中央銀行）の目標に近い水準にあります。2025年6月の利下げ後、ECB理事会の複数のメンバーは、さらなる金融緩和に対してより慎重な姿勢を示しています。しかし、成長率やインフレ率が予想を下回る場合、ECBは年内に再び利下げを行う可能性があります。FRB（米国連邦準備制度理事会）も政策金利の誘導目標を据え置きましたが、FRBメンバーの発言からは、FOMC（米国連邦公開市場委員会）で年内に1回または2回の利下げを決定する可能性が示唆されています。米国の債務が継続的な拡大基調にあることは、米国の長期金利にとってリスク要因です。総じて、ユーロ圏の成長率とインフレ率を取り巻く環境は、米国国債に対する欧州国債の優位性の下支えになると投資先ファンドは考えています。選択的な社債投資は、引き続きトータルリターンを改善するための有力な選択肢となります。現在はリスクプレミアムが低水準となっているため、よりクオリティの高い債券を嗜好しています。新興国債券は、堅固なファンダメンタルズ、良好な実質リターン、中央銀行の利下げ期待等が引き続き追い風になると見込まれます。

<新生 ショートターム・マザーファンド>

日本銀行は、円安による輸入物価の上昇などを背景に、国内の物価上昇率が高止まりしている状況を踏まえ、金融政策決定会合においてマイナス金利政策の解除後も追加利上げを継続しています。また、日本経済における最大の懸案事項であった日米関税交渉について、合意が得られたことは大きな前進であり、日本経済を巡る不確実性の低下につながると日本銀行総裁は評価しています。この合意は利上げを支持する要因となり得ますが、総裁は今後の経済指標への影響を慎重に見極める姿勢も示しており、現時点では政策金利への直接的な影響は限定的と見られます。ファンドの運営については、引き続き当初の運用計画に基づき、国庫短期証券等への投資を継続する方針です。

お知らせ

投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、投資信託約款に所要の変更を行いました。
(変更適用日：2025年4月1日)

<当該約款変更につきまして>

2023年11月に「投資信託及び投資法人に関する法律」の一部改正が行われ、交付運用報告書については書面交付を原則としていた規定が変更され、書面交付またはデジタル交付いずれかを選択できるようになりました。本件により、デジタル化の推進を通じて顧客の利便性向上を図るとともに、ペーパーレス化による地球環境の保全等、サステナビリティへの貢献に繋がるものと捉えております。

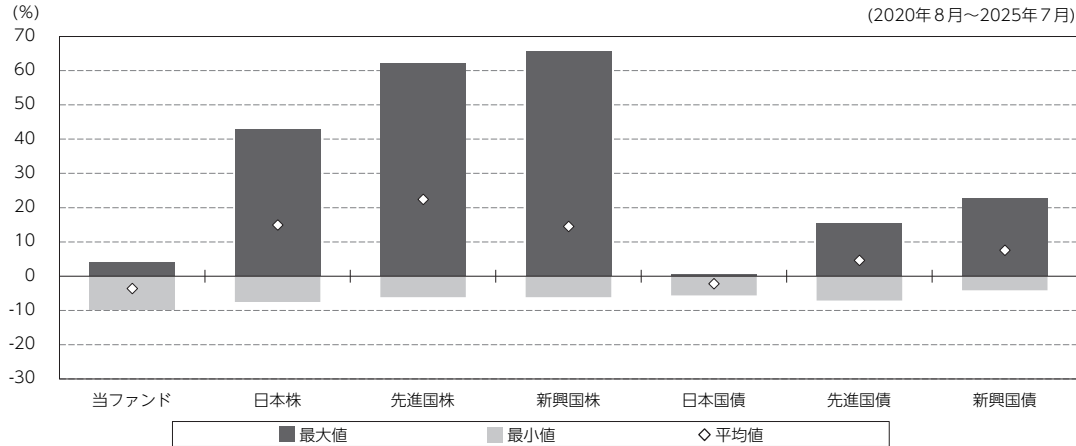
今後も顧客本位の業務運営を確保しつつ、電磁的方法での情報提供ができるよう整備してまいります。

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／資産複合	
信 託 期 間	信託期間は約9年8ヵ月（2016年12月16日～2026年8月13日まで） クローズド期間はありません。	
運 用 方 針	当ファンドは、主に投資信託証券に投資を行い、インカム収益の確保を重視し、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行います。	
主 要 投 資 対 象	ケイマン籍円建て外国投資信託 「UBSユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲ－新生・ワールドラップ・ファンド・ステープル・タイプ（適格機関投資家限定）円ヘッジクラス」受益証券	世界の株式・債券・リートおよびコモディティ等へ分散投資を行います。
	証券投資信託 「新生 ショートターム・マザーファンド」受益証券	主としてわが国の短期公社債および短期金融商品等に投資します。
運 用 方 法	①ケイマン籍円建て外国投資信託「UBSユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲ－新生・ワールドラップ・ファンド・ステープル・タイプ（適格機関投資家限定）円ヘッジクラス」（以下、「投資対象ファンド」といいます。）受益証券及び親投資信託である「新生 ショートターム・マザーファンド」受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）を主な投資対象とします。投資先ファンドへの投資を通じて、実質的に世界の株式・債券・リートおよびコモディティ等へ分散投資を行うことにより、信託財産の成長をめざします。 ②投資先ファンドにおいて、投資先ファンドの純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の対円における為替ヘッジ取引を行います。 ③投資先ファンドへの投資は、原則として、高位を維持することを基本とします。 ④資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。	
分 配 方 針	①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益（評価益を含む）等の全額とします。 ②収益分配金額は、委託者が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、市況動向や基準価額の水準等によって、分配金額が大きく変動することがあり、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ③収益分配に充てずに信託財産内に留保した利益（無分配期の利益を含みます。）については、運用の基本方針に基づき運用を行います。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	4.1	42.8	62.2	65.6	0.6	15.3	22.7
最小値	△ 9.8	△ 7.5	△ 6.1	△ 6.1	△ 5.6	△ 7.1	△ 4.1
平均値	△ 3.6	14.9	22.4	14.5	△ 2.2	4.6	7.5

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2020年8月から2025年7月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注4) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《代表的な各資産クラスの指数》

日本株…Morningstar 日本株式指数

先進国株…Morningstar 先進国株式指数 (除く日本)

新興国株…Morningstar 新興国株式指数

日本国債…Morningstar 日本国債指数

先進国債…Morningstar グローバル国債指数 (除く日本)

新興国債…Morningstar 新興国ソブリン債指数

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、全て税引前利子・配当込み指数です。

*各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2025年8月13日現在)

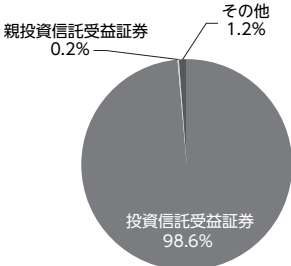
○組入上位ファンド

銘柄名	第9期末
	%
UBSユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲ-新生・ワールドラップ・ファンド・ステープル・タイプ（適格機関投資家限定）円ヘッジクラス	98.6
新生 ショートターム・マザーファンド	0.2
組入銘柄数	2 銘柄

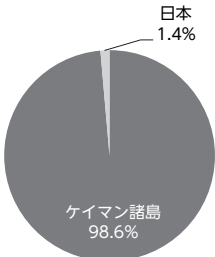
(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 資産別・国別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

(注3) 四捨五入の関係上合計が100%にならない場合もあります。

純資産等

項目	第9期末
	2025年8月13日
純資産総額	616,788,723円
受益権総口数	771,338,262口
1万口当たり基準価額	7,996円

(注) 期中における追加設定元本額は17,895,483円、同解約元本額は302,539,533円です。

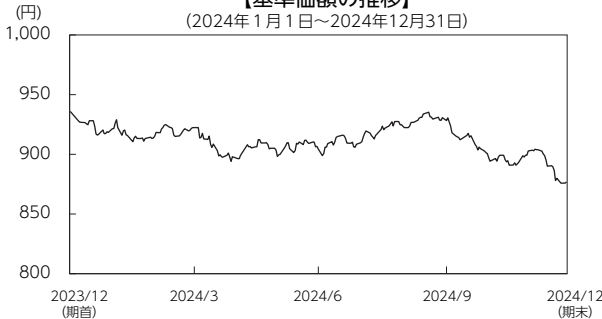
組入上位ファンドの概要

UBSユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲ－新生・ワールドラップ・ファンド・ステープル・タイプ（適格機関投資家限定）円ヘッジクラス

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成しております。

【基準価額の推移】

(2024年1月1日～2024年12月31日)



【1万口当たりの費用明細】

入手可能な費用明細のデータが存在しないため、掲載しておりません。

- (注1) 投資先ファンドの2024年1月1日から直近決算日（2024年12月31日）までの基準価額の推移を表示しています。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、分配金（課税前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを表示するものです。分配金再投資基準価額は、基準価額とは異なります。
- (注3) 投資先ファンドにより支払われた分配金は、当ファンドが受領しています。

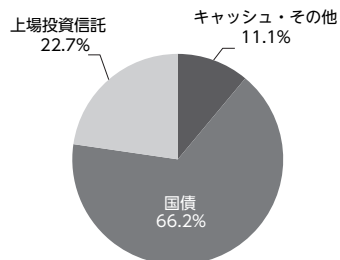
【組入上位10銘柄】

(2024年12月31日現在)

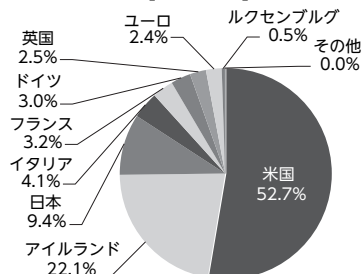
	銘柄名	国（地域）	建通貨	種別	額面金額	評価額（日本円）	比率
							%
1	UNITED STATES TREASURY NOTE	米国	米ドル	国債	493,000.00	74,193,036	9.9
2	ISHARES CORE MSCI WORLD UCITS ETF CL USD ACC	アイルランド	米ドル	上場投資信託	3,870.00	65,887,302	8.8
3	ISHARES CORE MSCI WORLD UCITS ETF CL USD ACC	アイルランド	米ドル	上場投資信託	3,722.00	63,367,580	8.5
4	UNITED STATES TREASURY NOTE	米国	米ドル	国債	401,000.00	55,889,428	7.5
5	UNITED STATES TREASURY BOND	米国	米ドル	国債	716,000.00	53,450,115	7.1
6	UNITED STATES TREASURY NOTE	米国	米ドル	国債	320,000.00	49,475,146	6.6
7	UNITED STATES TREASURY NOTE	米国	米ドル	国債	322,000.00	49,462,942	6.6
8	UNITED STATES TREASURY BOND	米国	米ドル	国債	303,000.00	47,442,767	6.3
9	DBX USD CORPORATE BOND 1D	アイルランド	米ドル	上場投資信託	23,412.00	46,452,802	6.2
10	UNITED STATES TREASURY NOTE	米国	米ドル	国債	259,000.00	37,576,875	5.0
組入銘柄数					44銘柄		

- (注1) 比率は投資先ファンドが属するシリーズ・トラストの純資産総額に対する割合です。
- (注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
- (注3) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
- (注4) 上記内容は投資先ファンドが属するシリーズ・トラストとしての運用状況を示しております。

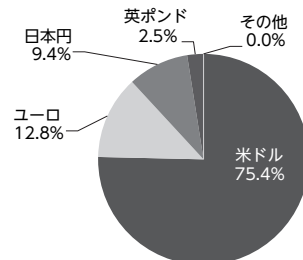
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は投資先ファンドが属するシリーズ・トラストのポートフォリオに対する割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

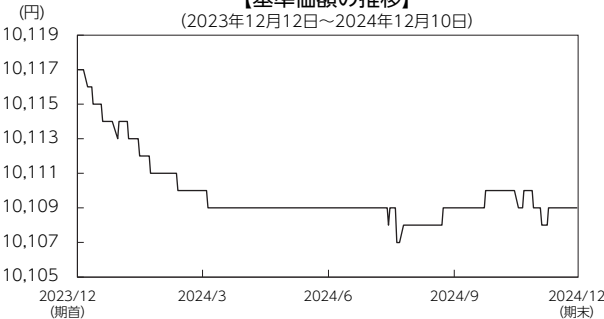
(注3) 上記内容は投資先ファンドが属するシリーズ・トラストとしての運用状況を示しております。

(注4) 四捨五入の関係上合計が100%にならない場合もあります。

新生 ショートターム・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2023年12月12日～2024年12月10日)



【1万円当たりの費用明細】

該当事項はございません。

【組入上位10銘柄】

(2024年12月10日現在)

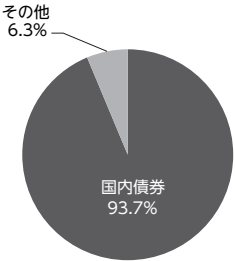
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率
1	第1260回国庫短期証券	国債証券	日本円	日本	93.7%
2	—	—	—	—	—
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数			1 銘柄		

(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注3) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は当マザーファンドの純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注3) 資産別配分、国別配分、通貨別配分は小数第2位で四捨五入しているため、合計が100%に満たない場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照下さい。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

<各指数の概要>

- 日本株：Morningstar 日本株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。
- 先進国株：Morningstar 先進国株式指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。
- 新興国株：Morningstar 新興国株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。
- 日本国債：Morningstar 日本国債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。
- 先進国債：Morningstar グローバル国債指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。
- 新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

<重要事項>

本ファンドは、Morningstar, Inc.、又はモーニングスター・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に本ファンドに投資することの当否、または本ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、本ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarインデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は本ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は本ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、本ファンドの基準価額及び設定金額あるいは本ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または本ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与していません。Morningstarグループは、本ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、本ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。